

隠岐ハイブリッドプロジェクトを知ろう



左側がリチウムイオン電池で右側がNAS電池。異なる蓄電池を組合せることで、再生エネルギーを安定して利用することが可能に。

再生エネルギー・ハイブリッド実証事業『隠岐ハイブリッドプロジェクト』とは？

太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー（以下、再エネ）は自然条件などにより発電量が大きく変動します。電気の品質を安定的に供給するためには、この変動分を調整して使用量と発電量を常に一致させ、電気のバランスを保つことが必要になります。このプロジェクトでは再エネの発電量の変動を調整するために、「リチウムイオン電池」と「NAS 電池」という特性の異なる 2 種類の蓄電池を組み合わせ、必要に応じて電気を貯め、放電するシステム = 『ハイブリッド蓄電池システム』を構築しています。この事業は、環境省が公募した「離島の再生可能エネルギー導入促進のための蓄電池実証事業」に中国電力が採択され、3 年間かけて、蓄電池の効率的な充電・放電を管理・制御する技術の実証を行うものです。

隠岐ハイブリッドプロジェクトでは 4 つの効果が期待されています。

① 電力の供給安定性の向上

本土と送電線が繋がっていない隠岐諸島で、再エネ設備や蓄電池を新たに設置することで、隠岐諸島内の電力の供給安定性が向上します。

② 地球環境負荷の低減

再エネの導入拡大により、ディーゼル発電による発電量を減らすことで、CO₂ の排出が削減され、地球温暖化防止に貢献します。（計画では年間最大約 1 万トンの CO₂ を削減予定）

③ 地域の活性化

本プロジェクトは日本初の先進的な取り組みであり、視察による来島者の増加等が期待されます。

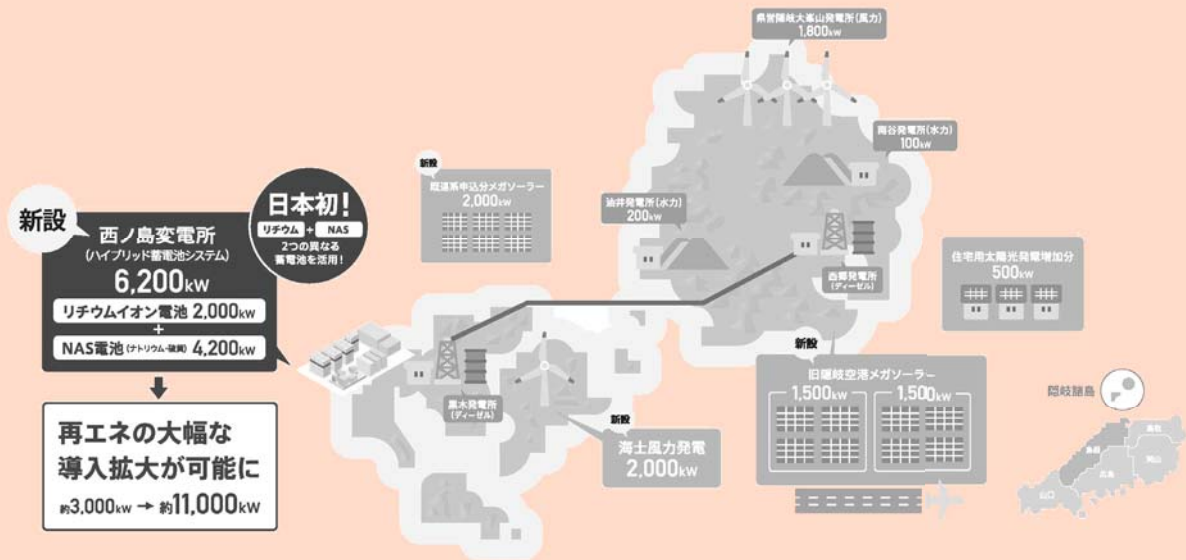
④ 蓄電池技術の他地域での活用

ディーゼル発電で電力供給している隠岐諸島と同規模の国内外の離島で、実証事業で得られたノウハウが活用できます。

隠岐諸島での安定した電力供給の実現。地球にも優しく。

隠岐諸島では、本土と送電線が繋がっていないことから、島内で発電しており、大部分を火力発電（西郷発電所・黒木発電所）に頼っています。

今回のプロジェクトでは、旧隠岐空港に設置されるメガソーラー、また今後、海士町に新設される風力発電と既存の風力・水力発電等の再生エネルギーとを合わせ約11,000kWの再生エネルギーに導入量が拡大され（下図参照）、隠岐諸島内の電力の安定性が向上し、地球温暖化防止に貢献します。



10/20 西ノ島町に蓄電池設備・変電所が完成

10月20日（火）、中国電力が隠岐諸島内での再生エネルギーの普及を目指し、着手してきた「再生エネルギー・ハイブリッド蓄電池実証事業」の竣工式が、西ノ島変電所で（西ノ島町美田尻地区）で行われました。中国電力 苅田社長や平口環境省副大臣ら約70名が出席し、再生エネルギー実証事業の成功を誓われました。

また、苅田社長や平口副大臣のほか升谷町長ら8名が蓄電池設備の前でテープカットし、祝われました。

苅田社長は「技術的、コスト的な課題が解決できれば、本土や海外の途上国など展開にも道が開ける。」と語られました。また、升谷町長は、「日本初となる実証事業が隠岐諸島で行われることは大変嬉しく思う。中国電力と隠岐4町村で連携し、事業に関する情報発信に力を入れていきたい。」と、話されました。



もっと詳しく知りたい方へ

① 西ノ島町別府港フェリー第2ターミナルの2階の一角がPRホールになっており、隠岐ハイブリッドプロジェクトについて、VTRやパネルで展示紹介しています。隠岐諸島の立体地図もあり、電気の流れなどがわかり易くご覧いただけます。

② 西ノ島変電所入口に音声案内付きの案内板があります。一般の方は内部には入れませんが、外部からご覧いただけます。



別府港フェリーターミナル2F『PRホール』